



広島国際学院
創立77年

目標を目指し狙いさだめて！



平成十六年度から
大学は大きく変わる！

特集＝高等学校－国際交流を振り返って－	2・3
情報学部部長就任あいさつ	4
学生時代の思い出と社会人になって思うこと	4
地域に開く－地域共同教育研究センター－	5
高校生向けの卒業研究発表会 工学部	6
社会調査士報告書発表会 現代社会学部	7
就職率100%を目指して 短期大学部	8
高校から発信 高等学校	9
私の大学生活	10
少林寺拳法部の紹介	11
高等学校部活動成績優秀者 理事長表彰	11
研究室紹介－工学部・情報学部	12
研究室紹介－現代社会学部・大学院生の研究紹介	13
大学就職状況	14
自動車短期大学部進路状況	15
高等学校卒業生進路状況	15
地域へ発信！「立町キャンパスフェア」	16

第42回全日本学生アーチェリー個人選手権大会3位入賞

工学部機械工学科2年生 瀬尾 聡 裕

広 報

第 57 号

平成16年 4月 1日発行

表紙写真＝学生会写真部 撮影

○ オーストラリアへのホームステイ

頭上をペリカンが飛び、野生のカンガルーが群れをなして、ゴルフコースのど真ん中に横たわっている。見渡す限りの地平線、雨上がりには大きな虹がかかる。それがオーストラリアだ。姉妹校グローブデール・カレッジのあるビクトリア州は本州とほぼ同じ大きさで、日本と季節が正反対。毎年訪問する7月中旬から下旬は真冬である。しかし気温は5℃～10℃で、日本の春先のような天候だ。1995年から毎年、メルボルン郊外でホームステイを実施している。これまで延べ85名が参加。このホームステイをきっかけに3名が1年間留学した。昨年は、これまで慣れ親しんでいた校舎がなくなり、更地になっていて驚いた。生徒数が減ったため、他の地域ヘトレーターで運んだのだそうだ。何と豪快な。土地が広いことと、建築費が安くなることで、校舎は平屋。



日本は夏休みだが、現地は学期途中で授業の体験や交流が可能。オーストラリアの原住民、アボリジニーに直接会って話を聞き、芸術作品や文化に触れる機会もある。もちろん、オーストラリア固有の動物、コアラ、カンガルーだけでなく、ウォンバット、ハリモグラ等に直接触れることも可能だ。屋内でのロック・クライミングや、ゴルフ、乗馬といった日本ではなかなかできないスポーツも体験してきた。1850年代にタイム・スリップして、ゴールド・ラッシュ時代の生活や砂金すくいも体験できる。メルボルンでは、トラム（ちんちん電車）に乗ってビクトリア朝時代の古い建物と近代的な建築物の融合を見ることもできる。オーストラリアといえば「ミート・パイ」。これ1つでお腹一杯になる。熱々の肉汁たっぷりのミンチがとろけだし、とてもおいしい一品。

○ イギリスの姉妹校へのホームステイ

イギリスとは、大学現代社会学部の目黒先生のお世話で2002年から交流が始まり、姉妹校提携をした。これまでに19名が参加。姉妹校のベックフット・スクールはリーズ近郊にある。イギリスのほぼ真ん中に位置し、文豪ブロンテ姉妹が活躍したハワースにも近い。ブロンテ博物館や世界遺産のファウンテンズ・アビー、城壁とバイキングの街ヨークを見学。ビートルズが生まれたリバプールへも日帰りできるので個人的に旅行した生徒もいる。ロンドンの美術館、博物館はとて1日では回りきれない。世界中から集められた美術品や恐竜の骨格などに生で触れることができる。また、運が良ければ衛兵の交代を見られるのも魅力だ。



○ 姉妹校からの訪問とこれからの展望



オーストラリアと英国にある姉妹校は、いずれも中高一貫の学校で、生徒数は1,000名ほど。現地の生徒と一緒に登下校し、家庭生活を体験できることにホームステイの大きな意味がある。オーストラリアでは我々のために特別なクラスをつくってくれている。姉妹校から最初に本校を訪れたのは1998年9月のこと。次いで2000年には歓迎集会在が催され、吹奏楽部がオーストラリア第2の国歌と呼ばれる「ウォルチング・マテルダ」を演奏した。書道や茶道体験に調理実習。社会研究部の生徒が平和公園を案内した平和学習。厳島神社の美しさに驚嘆の声があがった。2年ごとの訪問予定だったが、2002年はニューヨーク同時多発テロ、翌2003年はイラク戦争の影響で中止された。今年は2学期に来日の予定だ。イギリスからも本校を訪ねてきたいとの申し出があり、今年は両国から生徒がやってくる可能性がある。また今年度はオーストラリアから1名、1年間の長期留学生が来校する。ホームステイに参加することが難しい人は、姉妹校からの生徒を受け入れることで同様の体験ができる。今後も積極的に交流を進めていきたい。

朝鮮のことわざで「十年では山河もかわる」と言う。朝鮮語授業が開始されたのが昨日のように思われるが、すでに30年の歳月が過ぎた。感無量である。旧広島電機高校から始まった30年間の「朝鮮語」授業を深い感慨を抱きながら省みたい。



「朝鮮語教育」30年の歩み

—— 柔軟な感性を生かし力をつける ——

広島国際学院高等学校 講師 廉 リョム 和善 サァン

○ 「対立関係」から「友好関係」へ

私たち朝鮮人は「隣の親戚」とよく言う。隣人を大切にする。日本にも同じようなことわざがある。だが、1970年頃までは、日本の高校生の中には在日朝鮮人に対する民族差別を露わにする者がおり、民族学校生たちも暴力で対抗していた。1953年に海田町に広島朝鮮中級学校が設立され、1960年には高級部も併設された。広島電機高校は朝鮮学校から一番近い学校であった。しかし、朝鮮学校生徒と日本の高校生との衝突は後を絶たなかった。そこで、日本・朝鮮の教職員たちは根本原因を解決するため「教育を通じて生じた民族差別を教育を通じて正そう」と、1973年全国でも2番目に「チョソン語＝朝鮮語」授業を開講した。くしくもその年は広島朝鮮中高級学校が設立されて20周年であった。（はたして受講生はあつまるのか？）という危惧があったのは言うまでもない。初年度19人からの開講であった。初代講師は姜 周泰先生である。姜先生は、講師就任後すぐに朝鮮初級学校の校長に着任されたが、赴任後も12年間本校に通われ授業された。1985年より2代目講師として私が赴任した。

○ 「近くて近い学校に」

私が朝鮮語講師に就いてから今日まで、朝鮮語授業の年中行事として中断することなく続いていることがある。それは、「朝鮮学校訪問」と「朝鮮料理実習」である。一番近い学校なのに生徒たちは、一度も朝鮮学校に行ったことがない。1985年、私にとってはじめての仕事が朝鮮学校訪問であった。朝鮮学校の食堂のオモニに頼んで「ビビンバ」を準備してもらい彼らを待った。約束の時間が過ぎても生徒が現れない。何らかの手違いか？心は焦る。時間がかかり過ぎて3人の生徒が現れた。顔が引きつり、恐る恐る朝鮮学校の校門に近寄ったのである。他の者は「とんずら」したと言う。私は愕然とし、大きなショックを受ける。「朝鮮学校に行くのが怖い」。チョソン語講座が開講されてすでに10年が過ぎたにも関わらず、その時のショックは今でも忘れることができない。

一ヶ月後、再度「朝鮮学校訪問」を敢行した。今度は、全員を直接引率した。重い足を引きずり朝鮮学校に。食堂で「ビビンバ」を食べる。初めて「本場」のキムチを食べた。ある生徒が「先生、キムチを家族にも食べさせたい」と言う。オモニは、みんなにキムチを包んであげた。そして朝鮮学校の授業を参観し交流した。緊張した表情はいつかきれいに飛んでいた。帰りは朝鮮学校生に手を大きく振りながら「アンニョンヒケセヨ」若者は正直だ。体験すれば、瞬時に「先入観」は打ち消された。「やはり教育だ。教育の力は偉大だ」実感した瞬間であった。かくして朝鮮学校と国際学院高校は、「近くて近い学校どうし」になった。その後、チョソン語受講生の保護者の働きかけで朝鮮学校も町民祭りに参加できるようになり、朝鮮舞踊を披露した。また、国際学院高校、朝鮮学園、海田中学校のブラスバンド部200名による大合奏「アリラン」は会場を感動の渦に巻き込んだ。その時の感動を思い出すたびに目頭があつくなる。チョソン語授業が地域をも変えていったのである。チョソン語受講生も増え、現在2クラスで授業が行われている。修学旅行の目的地の一つが韓国であることも魅力か。

○ 「チョソン語」講座のさらなる充実を目指して

2002年、韓日共催によるワールドカップサッカーが、韓国、日本を感動の渦に巻き込んだことは記憶に新しい。韓国がこんなに身近になったことはかつてなかったのではないか。朝鮮語を習ったことのない人たちでも「アンニョンハセヨ」「カムサハムニダ」などの挨拶を良く知っている。キムチ、チゲナベ、ビビンバ、クッパ、チジミなどの朝鮮料理の名前も新日本語のように使っている。韓国・朝鮮がより身近になった。私は、この現象を素直に喜び、また一抹の不安をも抱く。朝鮮半島は今、南北に分断されたままである。54万在日朝鮮人の基本的人権は多くの問題点を残し、差別的状況は未だに深刻な問題を残したままである。国際交流、共生が声高らかに叫ばれる今日、私は21世紀の日本と朝鮮半島の真の善隣友好関係を築き上げるためにも国際学院高校が30年前に掲げたチョソン語授業の理念をより一層しっかりと掲げて行かなければならないと自分自身に言い聞かせている。私は、ここ海田の地で産声を上げ、30歳の成人に成長したチョソン語授業の充実のため、微力ながら力をささげる決意である。



情報学部長就任にあたって

情報学部長 檜 高 靖 治



今回、情報学分野がますます分化発展する様相にあることに鑑みて、新たに情報学部を発足しました。21世紀の情報学の礎になると考えて、次の2学科でスタートします。

- (1) ネットワーク技術、プログラミング技術を習得したシステムエンジニア育成を目指す情報工学科
- (2) ネットワーク技術、マルチメディア技術の基礎に習熟したWebシステムデザイナー育成を目指す情報デザイン学科

本学部の教育のキーワードは「個別」と考えています。教員は学生の疑問が十人十色であることを肝に銘じて、個別対応で一つずつもつれをほどこきます。たとえばプログラム作りでこの誘導をすれば、自信を得た学生の応用課題への取り組みは驚くほど能動的になります。タイムリーな個別対応がいかに重要な身に浸みて感じる時です。

教育はニーズ指向が基本です。学生の顔を鏡として自らの化粧を直し、「コミュニケーション能力、チャレンジ精神、主体性」を磨くべく、基礎知識の充実と応用課題への適用力強化を目標として、学生全員がよかったと思える空間を充実させたいと思っています。

皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

学生時代の思い出と社会人になって思うこと

「人間としての礼儀を厳しく指導されます」
責任を自覚することが大切!

工学部機械工学科平成14年3月卒業
吉 井 道 則

学生時代にはいろいろなことがありました。中でも友人と一緒に趣味の登山をしたことが一番思い出に残っています。大学近辺では、瀬野川沿いにそびえ立つ銚取山はしらりやまに登りました。中野東駅から平原橋を通り、「銚取山山頂へ」の標識を確認。途中迷いながらも山頂直下の急登を経て行きました。山頂からは川沿いの町並みがよく見えました。銚取山は標高七二二m。歩行距離も短く達成感十分です。眺望もよいのでまたいつか登山したいと思っています。

さて、大学を卒業し社会人になり、さまざまなことを考えます。まず、社会人は仕事をする前段階として礼儀作法、節度、協調性を身に付けることが大事です。私の職場はチームで行動しています。リーダーから人間としての礼儀を厳しく指導されます。仕事を覚えるのと同時に社会人としての責任を自覚することの大切さが問われるのです。次に、いろいろな人と積極的な話をして、自分という人間を知ってもらおうこと(自己アピール)

が大事です。そうすることで、困った時や相談したい時、話しやすい環境を作ることが出来ます。会社に入っても勉強する事は多く、勉強した内容がすぐに役立つことも多々あります。資格も会社に入ってから数個取りました。学生のときなら、資格を取るにしてもその勉強だけすればす

みましたが、社会人になると仕事をしながら勉強しなければなりませんので、やりくりが大変です。

最後に、自分を信じて、自分ならできるといふ前向きな考えで今後もがんばります。



今日、大学では地域社会との関係が一層重要となっている。本学は前身校の時代も含め地域から大きな支援・協力のもとで発展を成し遂げてきた歴史がある。地域の方々を対象にした本学の活動として、まず、学部局・学科等による「公開講座」・「講演会」・「産学官連携関連事業」等があり十分な成果をあげてきた。それ以外にも様々な取り組みが行われている。それらのうち「平成15年度の公開講座」を次のとおり紹介する。

企業、行政、地域住民の皆さんの声等からの本学への期待に応え、また本学が地域社会へ貢献するためにも、地域と今以上に良い関係・連携を築いていくことが重要であり、この広報がそのきっかけとなることを願っている。

「本学のありたい姿」と「持ち味」



地域共同教育研究センター

◎公開講座一覧◎

広島県高等教育機関連携公開講座「人権と福祉」（実施場所：広島県立生涯学習センター）

回	開催日	テーマ	講師
1	6月7日	人間にとって福祉とは何か	現代社会学部 学部長 新 睦人
2	6月14日	人権・コミュニティ・グローバルイゼーション	現代社会学部 教授 目黒 輝美
3	6月21日	フィンランドの高齢者の生活	現代社会学部 助教授 田中 里美
4	6月28日	福祉のまちづくり	現代社会学部 助教授 池本 良教
5	7月5日	日本社会と外国人	現代社会学部 講師 伊藤 泰郎

広島市教育委員会シティカレッジ「暮らしの中の先端技術」（実施場所：広島市まちづくり市民交流プラザ）

回	開催日	テーマ	講師
1	10月17日	広島グルメとパイオ	工学部 教授 佐々木 健
2	10月24日	飲料・食品の容器と先端技術	工学部 教授 松坂 菊生
3	10月31日	デジタル社会	工学部 教授 江端 克彦
4	11月7日	材料開発と電子計算機	工学部 学部長 今村 詮
5	11月14日	暮らしの中のノイズと工学	工学部 教授 西村 正文

講演会「暮らしの中の金融と経済」（実施場所：本学 立町キャンパス）

回	開催日	テーマ	講師
1	11月19日	身近な資産運用の話	法人事務局 経理部長 岡田 禎之
2	11月26日	身近な年金相談について	
3	12月3日	身近な相続の話	

「どうなる？エレクトロニクスライフ」（実施場所：本学 立町キャンパス）

回	開催日	テーマ	講師
1	2月6日	どうなる？地上波デジタル放送	工学部 助教授 荒川 延浩
2	2月13日	どうなる？デジタルカメラ	工学部 助教授 田中 誠
3	2月20日	どうなる？電池	工学部 助教授 佐伯 哲二
4	2月27日	どうなる？CD・DVD	工学部 教授 江端 克彦

「英会話講座」（実施場所：本学 立町キャンパス）

	回	開催日	講師
前期	1	1月24日	工学部 講師 サンドラ・V・ウィリアムズ
	2	1月31日	
後期	1	2月7日	現代社会学部 教授 沼野 治郎
	2	2月14日	
	3	2月21日	



高校生向け卒業研究発表会を開催！

工学部

—— 生徒の目がキラリ ——



高校生を対象に4年生が卒業研究の成果を発表する会を、2月21日(土)の午後に「立町キャンパス」で行った。高校生や先生方など約60名が参加し、メモをとりながら熱心に聞いていた。質問する生徒の目にキラリと光るものを見た。10件の研究は各科から選抜されたもので、発表した学生の一人は、「わかりやすく説明するということは大変難しいですね。苦労しました」「研究のおもしろさが少しでも伝わればうれしいです」と話していた。高校生は「少し内容や用語が難しかったが、興味がわいてきた」と言っていた。当日の発表テーマと発表者は次のとおりである。

[電気工学科]

- 画像処理を用いた点字認識システムに関する基礎的研究 (原田 伸一)
- 風力を利用した発電の研究 (夕部 一樹・佐々木 輝政)

[電子工学科]

- Visual Basic による線形回帰プログラミング (片岡 大蔵・田村 文明・新田 理人)
- 携帯JAVAアプリ(Vアプリ)の開発 (丹羽 英太・松田 洋隆・伊集院勝紀・谷口 徹)
- 大気汚染による金属表面の腐食の研究 (岡田 正和・久保下裕文)

[機械工学科]

- SW(ソリッドワークス)ソフト等を用いた作用力点を考慮した三次元物の設計に関する考察 (前田 憲司・山口 剛史・細井 新)
- FEMを用いたビッカース硬さに関する研究 (倉本 和往)

[情報工学科]

- VPN環境の下でのGridコンピューティングシステムに関する研究 (酒井奈美子)
- 形状認識プログラム (中村 克徳・旭 洋一・栗栖 正)
- 酒都西条、日本酒の用水の水質と森林保全の重要性 (里 太介・古谷 大輔)



まさに真剣勝負！

実社会を自分の肌で感じて —— インターンシップ体験 ——

工学部情報工学科4年生

いわ まさ たか え
岩 政 貴 絵

私はインターンシップを通して、実社会を自分の肌で感じたいと思い、呉市役所での研修を希望しました。市役所では、普段の大学生活では経験できない数々のことに出会い実感しました。

私がお世話になった情報政策課では、情報化推進係と統計係という2つの分野の係があり、全く異なった仕事を体験しました。

まず情報化推進係では、庁内LANや地域イントラネットの見学をしたり、システムの構成を学習したりしました。私は学校でLANなどについて学習していますが、実際に社会でどのように利用されているのかわかりませんでした。一つ一つ見学をして、実際に触れてみることで、今までは気が付かなかった欠点や問題点などにも気付きました。

また統計係では、統計の利用方法、統計の集め方など、地域の人たちにより密着した仕事を体験することができました。今まで、統計の必要性など考えたことがなかったので、なぜ必要となってくるのかなどを知りました。

呉市役所での実習で、私は人を相手にする職業に「無駄なこと」はないということを知りました。たとえ小さなことでも、誰か一人でも役に立ったと思えるのなら、それは必要なことなのだと感じました。

私は将来、教師になりたいと考えています。今回インターンシップで経験したことを、今後の就職活動や社会人になってからの生活に役立てていきたいと思っています。



教師になりたい！

卒業論文発表会!!

—— はりきりました!! ——

2月5日、立町キャンパスにて卒業論文発表会が開催された。118人から選ばれた8人の発表には、どれも努力の成果が凝縮されている。特に山口保さんの「Hip Hopの社会的影響力」、板倉徹さんの「チャット・コミュニケーションの分析」は現代社会で注目されている現象を扱いつつ、社会学の技法にのせた分析提示をした。

また、小林裕一郎さんの「ノルベルト・エリアスについての一考察」といった古典的文献を丹念に考察する論文もあり、社会学があつかう対象の幅の広さを実感できるものであった。



なお、この資格は今年夏に正式に認定され、取得できるカリキュラムを持っていくのは、国内では広島国際学院大学だけである。

2月22日、立町キャンパスにて今年社会調査士の資格取得を目指す学生による社会調査士報告書発表会が開かれた。今年広島県の再就職支援事業で科目等履修生も同資格取得を目指し、ユニークな調査報告がなされた。

実際に子育て中の科目等履修生の女性による「幼稚園に通わせている母親の実態」は、県内240人からの調査結果で、夫が育児をしない「専業主婦」の母親に育児負担が大きく、孤立化している母親像が浮き彫りにされた。会場の市民の関心も高く、具体的な事例や「どうすれば悩みは解消されるのか」など質疑応答が活発に交わされた。

育児不安や高齢者介護など社会のある面を照らし出す
社会調査士資格取得へ向けて
報告書発表会

私は8月1日から2週間、呉市役所でインターンシップに参加してきました。勤務地は呉ポートピアパークで、公園管理業務やイベント事務局業務を体験し、最終日には研修生6人で企画したイベントを実際に行うというものでした。当日はあいにくの雨だったにも関わらず、前日のTVでのPRや当日の新聞記事を見て来てくださった方に感激しました。しかし、このイベントの準備を進めていく中で、6人いた研修生のうち、1人とうまくコミュニケーションがとれず、6人の輪が最後まで作れなかったという経験をしました。ただみんなにあわせていればなんとかかなる学生の集団性とは違い、社会では一人一人が責任と役割を負いながら集団の一員として働いている。今まで数々のアルバイトを経験してきたけれど感じたことの無かった感覚でした。現在就職活動中でもあり、この研修で社会に出て行くにあたっての心構えを一つ学んだような気がします。

やったよ! 私の就職活動

社会に出ていく心構えを一つ学んだ!

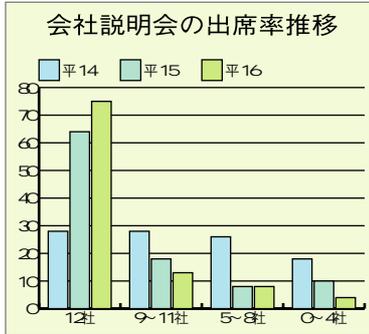
—— インターンシップ体験 ——

現代社会学部4年生 うえだ なつみ 上田 奈津美



「第56号訂正」 7ページ左下写真説明の氏名 「中野秀二郎」→「中野秀一郎」

2月2日(月)～2月4日(水)の3日間、国内全メーカー・系列ディーラによる会社説明会が短大部内で行われた。参加会社は、例えばトヨタ、トヨペット、カローラ、ネッツ、ビスタ、L&Fなどグループ会社を1社として12社、参加人員は計75名であった。



今年は、図に示すように出席率が高く、全員がリクルートスーツで出席、会社の特色や訪問日程などを真剣な面持ちでメモするなど、受講態度もかなり熱心であった。

ディーラへの就職を希望する学生は、この後会社訪問、採用試験と本格的な活動に入る。

ZOOM! ZOOM! マツダ見学会 車が好きでたまらない学生の心に火をつけた!

2月5日(木)・6日(金)、二日ともうっすらと雪化粧する寒い日となった。1年次生最後の行事となるマツダ見学会が行われた。学生会が主催し3組に分かれて実施した。

学生のうち6割以上が、小学生や中学生のときに一度はここを見学に来ている。それでもアンケート結果を見ると、99%がマツダ見学会の必要性を強調する。普通では見られない溶接ロボットを主体とするボディの生産工程が見学できたこと、マツダミュージアムで初期の三輪トラックから初代のコスモスポーツが見られたこと、最新のロータリーエンジン車のRX-8に触れられたことなどが、車が好きでたまらない学生の心に火をつけたようだ。

将来自動車業界のプロとして自動車整備士を目指す学生には、1分10秒のタクトで多品種の車が次々と組み立てられていくコンベアラインが新鮮に見えたらしい。時間のたつのも忘れがちで、教職員にせき立てられながらの見学となった。2時間半のスケジュールがあつという間に過ぎてしまったようだ。



「二輪部」活動の復活を目指して いろいろ企画して活動の輪を広げたい!



自動車短期大学部2年生 あか し まさ よし 明石真佳

自短へ進学して学生生活の半分が終わろうとしている今、まだ1年生なのに就職活動をしなければならないのはちょっと複雑な気持ちです。しかし、短い学生生活を少しでも楽しもうと、自短へ入ったら二輪部に入部しようと思っていました。時々足を運ぶバイク屋の

店員さんが自短の卒業生で、在学時、二輪部に入っていて楽しかったという話を聞いていたからです。昔はキャンパス内にコースがあつていつも遊んでいたとか、ジムカーナをしていたとか伺いました。しかし入学してみると、二輪部が存在してはいるものの、ほとんど活動らしい活動をしていないことがわかり、ちょっと残念でした。そこで仲間を集めて二輪部を復活させることにしました。去年は走行会、ロードレース、オフロードレースに出たり、走行練習にもあちこち行きました。現在はモトクロスが人気でメンバーも15名強になりました。休みの日にはみんなでモトクロスやエンデューロの練習に行ったりとだんだん盛り上がってきました。今年もいろいろ企画して活動の輪を広げていきたいと思います。



第55回卒業証書授与式盛大に挙行 未来に向かって羽ばたく322名



梅花香る3月1日、第55回卒業証書授与式が本校体育館で多数の来賓や保護者を迎え盛大に挙行された。卒業生は、吹奏楽部の奏でにのって入場。ころなしに遅く見える。自分の名前が呼ばれると緊張の面持ちで返事をして起立していた。卒業生の胸には、保護者達の手作りのコサージュが祝福を添えている。式が終わった後、教室や校庭では、友達や恩師、保護者らと記念写真を撮る姿があちこちに見られ、いつまでも別れを惜しんでいた。卒業証書を手にした322名の若者は未来に向かって羽ばたいていった。



卒業式に華を添えるコサージュ製作 保護者の手作り教室開催

PTAでは、毎年、卒業生の胸に飾るコサージュを贈ることにしている。このコサージュは、保護者が手作りすることになっている。PTAが役員・



幹事や会員に呼びかけ「コサージュ手作り教室」を開催した。この手作り教室では、今年も多くの方が集まり卒業を祝福し、卒業生の前途が幸多いことを願って全員分のコサージュを製作した。心のこもった見事なコサージュは、卒業生の胸で華やいでいた。

2004年度一般入学試験

挑戦する1,800名余の受験者

2004年度一般入学試験は、2月18日・19日の2日間にわたって実施された。今年は天候に恵まれ、2月とは思えないような暖かい入試日になった。試験開始2時間以上も前から来場する受験生もあり、今年度も1,800名余の受験者が挑戦した。正門前では、来場する受験生を中学校の先生や塾の先生方が迎え一人ひとりに激励の言葉を掛けていた。



受験会場を知らせる中庭は、受験生で溢れかえっていた。受験生達は、緊張の面持ちで試験に挑戦していた。

知っておきたい法律問題 犯罪に巻き込まれないよう

【卒業を前に「法律教室」をひらく】

去る1月31日(土)、卒業を目の前に控えた三年生を対象に今年も広島司法書士会の協力を得て「高校生のための法律教室」を開いた。現在、社会構造はますます複雑になり、悪質な商法が増えている。そうした中で犯罪に巻き込まれないようにと開催されたこの「法律教室」は、各教室毎に講師の先生方が、犯罪の実例をあげながら分かりやすく講演して下さった。特に講演の中で「自己防衛と、自己責任」について触れられた。また自分が加害者の立場に決してならないようにと指導もしていただいた。学校の授業とは違った面で切実な問題として生徒達は真剣に聞いていた。生徒たちの感想によれば特にクレジットカード犯罪や、印鑑を押すことによる責任、クーリングオフ制度の利用方法などを教わり、大変為になったと述べている。また、犯罪に対する怒りも抱きながら社会構造の複雑さを感じていた。生徒達を見ているとあまりにも無防備な点が目立つ。今後も引き続いて実施したいと考えている。



私は「VOD放送通信研究会」という、舞台のイベントスタッフとして活動するサークルに所属しています。「VOD」は司会から企画、音楽バンドのセッティング、スピーカーなどの音響まで自分たちの機材を使い、それぞれの役職についてイベントを進めていきます。

私の今の役職は「ステージマネージャー」です。通称「ステマネ」はステージの最高責任者であり、イベントにかかるすべての時間配分を考えながら、他の役職にも指示を出さなければいけません。つまり、私が指示を出すことでイベントが進行するのです。前部長からこの大役をまかされたとき、ものすごく不安がありましたが、先輩や同級生に相談しては何度も励まされました。今では「私にしかこの役はできない」と自分自身に言い聞かせて、イベントを進行するよう努めています。



「人間関係が大切です」と語る

「私にしかこの役はできない」と自分に言い聞かせ務める！

—— ステージマネージャー

現代社会学部4年生 こうの 河野美穂

9月末に行われた「定期演奏会」に参加した際、時間通りに終わらせることができ、大成功を収めました。これは私だけではなく、ステージ運営に関わったみんなで勝ち取った成功です。イベント運営で大切なのはチームワークです。自分の意見を主張しつつ、それぞれの役職を信頼し、指示を出していくことが「ステマネ」には大切なことです。また、このサークルにはいろいろなタイプの人がいるため、意見の食い違いや対立がよく起こります。彼らの話をじっくり聞いてなだめることも私の仕事です。

残りのイベントも成功させて、ここで勉強したことを社会で役立てていきたいです。

私の大学生活

あの2週間のおかげだと言っても過言ではありません。厳しい就職活動を乗り越え、教育実習にも行き、今は卒業研究に打ち込んでいます。平行してCCNPという資格の勉強もしています。多忙な毎日ですが、忙しさを楽しみながら充実した毎日を送っています。

4月からは社会人として新たな生活が始まりますが、4年間で学んだことを、そしてゼロから1つずつ楽しむことを忘れずに頑張っていこうと思っています。



ゼロから楽しむと話す

ゼロから楽しむ新たな生活へ

—— 自分は将来、どう生きていくのか
将来像を明確にできた

工学部情報工学科 さか 酒井奈美子
平成16年3月卒業

私の大学生活はゼロからの出発でした。コンピュータのことを何も知らなかったため、毎日の講義はひたすらついていくことに必死で、時には焦り、悩み苦しむこともありましたが、1つずつ自分のものにしていくことで、時間はかかりましたが、自然と楽しむ余裕が出てきて、目標を持つこともできました。特に、3年生の夏休みにインターンシップに参加したことは、自分にとってとても大きな宝となりました。呉市役所で2週間業務体験をさせてもらったのですが、自宅から呉市役所までは片道2時間かかり大変でした。しかし、自分でやってみたくて参加したことから、最後まで音を上げることなく、毎日を楽しむながら2週間を過ごしました。このインターンシップで得たものはとても大きく、自分の将来を考える上で一番影響を及ぼしました。自分はこれからどのような人間になり、どう生きていくのか、将来像を明確にすることができたのも、

少林寺拳法部の紹介

「拳禅一如」

精神と肉体を鍛える！



エイ！ 1ポン！



どうじゃ！

こんにちは、広島国際学院大学学友会体育局少林寺拳法部です。我々少林寺拳法部は、現役部員10人、マネージャー2人と少数ながら、毎週火曜日から金曜までの週4日、16時から19時までの3時間練習に励んでいます。

少林寺拳法は自ら攻撃するのではなく、自分の身が危険にさらされたときに使われる拳法です。ですから護身術としては非常に優れており、力が強くなくてもできるため、子供から大人まで、男女を問わず習得できます。

少林寺拳法の教えの一つに「拳禅一如」というものがあります。拳は肉体を、禅は精神を意味します。肉体だけをいくら鍛えても本当の人格は完成しないし、また精神面だけをいくら修養しても本当の安心は得られません。つまり拳禅一如とは、肉体を鍛えると同時に精神も修養することなのです。

年に2回行われる大会では、「試し合い」という意味での演武や運用法があります。一人一人が戦って勝敗を決めるのではなく、互いの技術を向上することが目的なのです。

部名	個人種目・団体別	受賞者	出場大会名	成績
柔道部	個人 男子66kg級	東岡 嵩士 (3年)	第50回中国高等学校柔道大会	2位
	個人 女子70kg級	近藤 裕美 (2年)	同上	3位
ボクシング部	ライトフライ級	呑田 将樹 (3年)	第57回中国高等学校ボクシング選手権大会	優勝
水泳部	男子 200m背泳ぎ	前田 尚希 (2年)	第51回中国高等学校水泳競技大会	4位
	男子 100m背泳ぎ	前田 尚希 (2年)	同上	5位
レスリング部	個人 120kg級	谷本 弘蔵 (3年)	第42回中国高等学校レスリング選手権大会	優勝
	個人 76kg級	濱 大輔 (3年)	同上	3位
	個人 120kg級	藤田 真也 (2年)	第19回中国高等学校選抜レスリング選手権大会	2位
	個人 50kg級	柳井 裕偉 (1年)	同上	3位
	個人 55kg級	増原 浩俊 (2年)	同上	3位
	個人 60kg級	平山 徹 (1年)	同上	3位
吹奏楽部	団体 吹奏楽の部		第15回全日本高等学校吹奏楽大会	優秀賞 マルタ賞
	団体 吹奏楽の部		第44回全日本吹奏楽コンクール中国大会	優秀賞

平成十五年度 理事長表彰受賞者
広島国際学院高等学校部活動成績優秀者



本研究室には、現在、11名の学部学生がおり、通信ケーブルの保守支援技術を中心とした研究を行っている。

情報化社会の進展とともに、通信は社会基盤として重要性を増しており、通信が途絶した場合の社会的な影響が増大している。当研究室では、通信ケーブルに破断などの障害が発生した場合に、障害位置を正確かつ迅速に計測し、保守修理を容易にする技術として、障害位置計測技術と自律走行型ロボットによるケーブル追跡技術の二つを検討している。

ケーブルに電気信号パルスを一方の端から供給すると障害点でパルスが反射して入力端に戻ってくる。パルスの伝播時間とあらかじめ同種のケーブルで測定し

たパルス伝播速度から、ケーブル端から障害点までの距離が計測できる。当研究室では、一般に行われる幅の狭いパルスではなく、階段状のステップパルスを用いている。これにより、単に障害位置を計測するだけでなく、障害点の状況が破断なのか短絡なのかまたはその中間なのかといった情報を取得できる。また現在、8000mの距離で約1mの精度で障害点検出が可能な事を確認している。ロボットによるケーブル追跡技術では、海底面に埋設されたケーブルや通信ダクト内のケーブルなど、人間が直接観測できない状況でケーブルを追跡するためのロボット制御技術と小型高感度磁気センサの試作の取り組みを進めている。



工学部 電気電子工学科

鈴木 静雄 研究室



情報学部 情報工学科

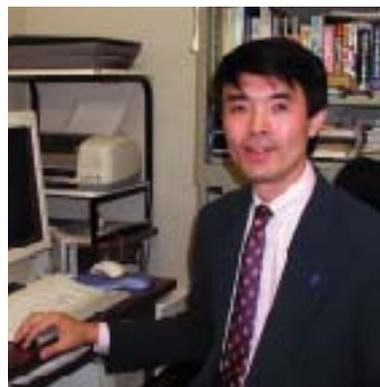
朱 紅兵 研究室

●知能情報処理●

知能情報処理は、ニューラルネットワーク、ファジイ及び遺伝的アルゴリズムなどの知能的な方法を使って、言語、音声、画像など様々なメディア（マルチメディアと呼ばれる）を処理することを指している。ニューラルネットワークは脳を模倣しようとし、ファジイは人間の主観的な情報処理方式を、遺伝的アルゴリズムは生物の進化のメカニズムを模倣しようとしている。ここには、生物から学ぼうという共通点がある。これらの技術は融合されることによって、ますます優れた技術になって行く。私の研究室は、このような新しい情報処理に関する理論的・実践的教育、また常に最新の方法を取り込んで新たな知能情報処理に関わる理論的・応用的な研究を行い、将来この分野で主体的に活躍できる人材の養成を目指している。現在行われている主な教育・研究テーマの一つは以下のようになっている。

[インターネット管理の知能化に関する研究]

インターネットは世界中に接続されている。その管理がとても重要になっていることは明らかだ。しかし、今のところ有効かつ自動的な管理方法がない。ほぼ事後処理という現状である。それに対して、ニューラルネットワークの記憶性・学習性、ファジイの曖昧さなどの特徴を持つ知能的な手法を利用することによって、事前予防だけではなく、柔軟、安全、有効、自動的な管理システムを作り、便利で安全なインターネットを構築したい。



の 紹 介 ● ● ●

社会生活には、たとえば、家族、学校、職場、教会、商店、……など、数えたらば限りのないほどのユニット（単位）がある。社会学および社会科学では、この単位を「社会システム」と呼ぶのが通例である。私の研究テーマはこの意味での社会システムに共通な特徴を、とくに各種のシステムを比較しながら明らかにすることである。比較の焦点は人間関係のようなミクロ（微視的）な対象にも向けられるが、今日のように、グローバル化が進んでくると、比較社会学の作業は、マクロ（巨視的）な国家や社会といった規模の国際的なシステム間の比較として進んでくる。私のフィールドはヨーロッパ中心であるから、たとえば、日本とドイツの都市計画、日本とイギリスの経営方式、ドイツとフランスの育児援助制度、……などの、折々のテーマについてシステムの共通点と相違点を探っていく。最近では、比較の枠組みを「情報化」の進んだ社会と状況に限定しているので、卒業論文でも、「観光システムにおける情報化の役割」とか「ハイパー・システムの間関係への影響」といったテーマが選ばれたりした。だが、私が広く社会学に課している究極の問題は《人間の生き方にたいするガイド》の役割であるから、家族、コミュニティ、企業組織、都市、などの具体的な比較の作業をとおして、それが《人びとのライフスタイルやライフコースにどのように関係しているか》ということをおのづかしのシステムの事情に即して追求していく。



現代社会学部

あたらし むつ んど
新 睦 人 研究室



大学院生 材料工学専攻

やま おか よう すけ 博士 課程
山 岡 洋 介 (後期) 1年生



私は、旧広島電機大学附属高等学校を卒業し、広島国際学院大学電気工学科、大学院修士課程と9年間にわたり、本学院で学んできた。

現在、私が研究している生物工学は、微生物工学や医用工学、遺伝子工学など、生物の機能を工業的側面から研究・開発する分野で、バイオエレクトロニクスなど、学部で学んだ電気工学が発展した新分野である。

私の研究は、水圏微生物の一種である有用なバイオ菌（光合成細菌）を用いて、レストランや家庭などから排出される油含有排水の処理技術開発を行っている。難分解性として知られる油分は、排水処理施設に多くの弊害を及ぼす。このため、排水に含まれている油分を光合成細菌によって分解し、油含有排水を高効率に処理する技術が開発できれば、実用的で有益な研究になるのではないかと期待している。また、その他にも、水質データを用いた瀬野川の水環境評価システムの開発や、微生物を用いた医薬品などの有用物質生産なども行っており、今後は廃油からの有用物質生産や廃油のリサイクル利用技術などを視野に入れ、実社会で役立つ研究にとりくみたい。

産学連携の必要性が叫ばれる今日、少しでも有益な研究を行っていき、特許も取得できればと思っている。さらに博士の学位取得後は研究留学を考えており、この夢の実現に向け今後も精進する決意を固めている。



平成15年度

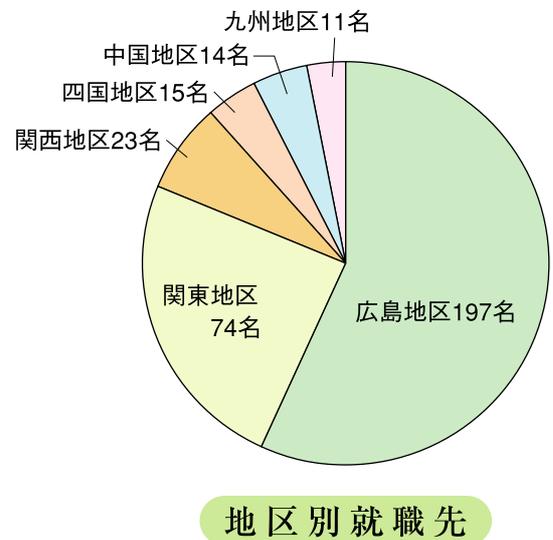
広島国際学院大学就職状況

平成16年3月19日現在

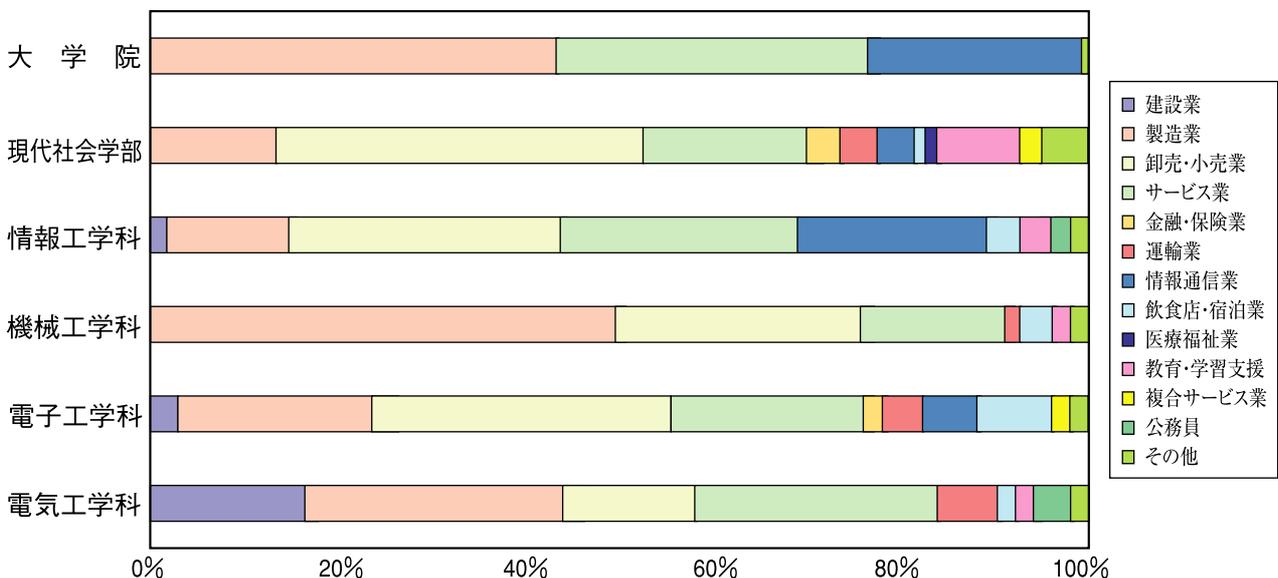
- ・ 厳しい国際競争のもとで企業が求める「目標達成能力」、「問題解決能力」のある人材の育成に努めています。
- ・ 従来から元気で実践力のある学生を育てており、実社会で卒業生の活躍が評価され毎年10倍以上の求人倍率により高い就職率を達成しています。
- ・ 就職活動に直結する授業（キャリアデザイン）をはじめ面接・文章作成の指導など、学生の就職活動を就職部と教員がきめ細かくサポートしています。

就職状況

項目	電気工学	電子工学	機械工学	情報工学	工学部計	現社部計	大学院	
卒業・修了者総数(人)	79	86	79	95	339	118	17	
就職希望者数(人)	64	66	66	74	270	100	15	
採用内定者数(人)	60	55	64	67	246	78	10	
就職率	94%	84%	97%	91%	92%	78%	67%	
就職率(前年度)	82%	87%	96%	97%	90%	78%	55%	
進学	5	4	5	7	21	0	1	
求人状況	会社数	1,116	1,089	1,120	1,048	1,186	920	373
	求人数	1,141	1,106	1,154	1,063	4,464	923	567
	求人倍率	14倍	13倍	15倍	11倍	13倍	8倍	33倍



業種別就職状況



平成15年度

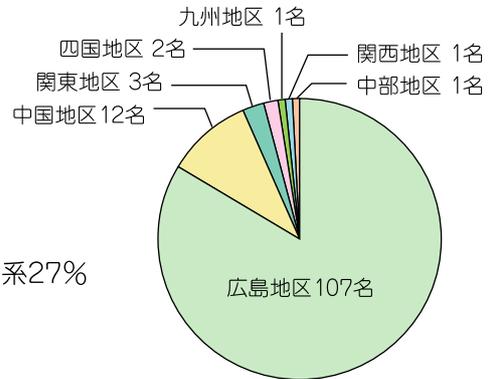
広島国際学院大学自動車短期大学部進路状況

平成16年3月19日現在

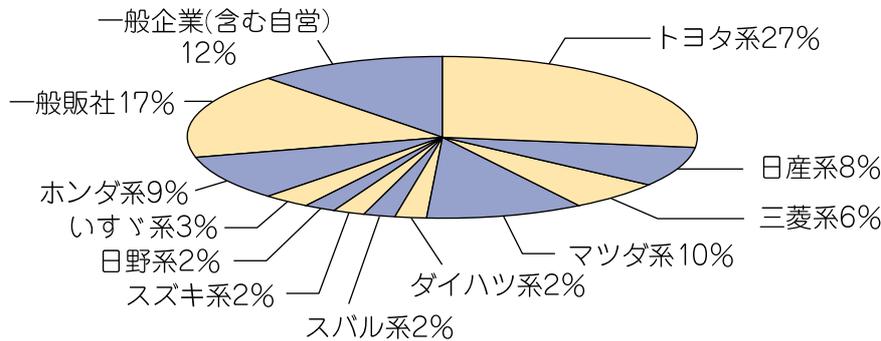
2003年度進路状況

卒業生数	147名
就職決定者/希望者	116名/121名
進学決定者/希望者	11名/11名 (専攻科:8名を含む)
自己開拓	15名

地域別進路状況



卒業生の進路内訳



平成15年度

広島国際学院高等学校卒業生進路状況

平成16年3月19日現在

学 科	性別	在 籍	進 学				就 職					
			大学	短大	専 門	未 定	県内	県外	公務員	自 営	自 己	未 定
総合システム科	男	88	30	9	20	4	17	1	1		5	1
	女	4			1		1				2	0
普 通 科	男	121	71	5	19	16	2			1	5	1
	女	109	30	20	34	12	7				7	0
合 計		322	131	34	74	32	27	1	1	1	19	2
		%	84.2%				15.8%					

主な進学先 (合格先)

大阪大・広島大・愛媛大・和歌山大・岐阜大・島根大・鹿児島大・防衛大・島根県立大・広島修道大・近畿大・広島工業大・広島経済大・安田女子大・広島国際大・広島国際学院大・広島女学院大・呉大・エリザベト音楽大・福山大・比治山大・広島文教女子大・岡山理科大・吉備国際大・くらしき作陽大・山口東京理科大・札幌大・北海道医療大・東北文化学園大・早稲田大・日本大・芝浦工業大・日本女子大・国立音楽大・城西大・神奈川大・城西国際大・立正大・愛知工科大・同志社大・関西大・立命館大・同志社女子大・京都産業大・龍谷大・京都外国語大・京都学園大・関西福祉大・武庫川女子大・追手門学院大・大阪国際大・神戸芸術工科大・姫路獨協大・帝塚山大・大阪商業大・福岡大・安田女子短大・比治山大短大部・鈴峯女子短大・山陽女子短大・広島文化短大・広島国際学院大短大部・岩国短大・作陽短大・横浜女子短大・創価女子短大・山野美容芸術短大
 広島市立看護専門・広島市医師会看護専門・岡山理大専門・国際医療福祉総合学院・広島コンピュータ専門・広島ビジネス専門・広島会計学院専門・広島外語専門・県理美容専門・広島工業大学専門・広島製菓専門・広島電子専門・広島自動車整備専門・広島美容専門・IGL医療専門・広島歯科技術専門・穴吹デザイン専門・広島情報ビジネス専門・広島酔心調理師専門・広島YMCA健康福祉専門・中日本航空専門・マインド美容専門・福山歯科衛生士専門・東京工学院専門・広島医療体育専門

主な就職先

デオデオ・日新製鋼・伊藤忠エネクスカーライフ・マイクロテクノ・今井観光・大蔵工業・荻野工業・中国精螺・かめや釣具・ガイア・ゴロー・桐原容器工業所・コンベルシュミット・佐川急便・西武造船・広越・ヒロテック・双葉運輸・山本整形外科・古川医院・自衛隊・ヘヤーRapiese

一般の方々に、工学部と情報学部(新設)の教育・研究内容を紹介する「立町キャンパス クリスマス フェア」が今年の12月20日(土)と21日(日)の両日、広島市の中心部にある本学の立町キャンパスで行われた。

《学生サンタが大人気!》

今回は「学問は楽しい!」というテーマで、子供から大人まで実演や制作で楽しみながら本学の研究や教育の一端にふれていただく体験型のフェアであった。クリスマスが近いこともあり、街頭では学生が扮したサンタクロースやトナカイが風船やキャンデーを子供達に配って楽しさを盛り上げた。当日の様子はテレビや新聞でもニュースとして報道され、大学と地域社会が交流する新しい試みとして社会的にも注目を集めたようである。



地域へ発信

学問は楽しい

「立町キャンパスフェア」を開く——元気の素がここにある!——



《実演と体験!》

会場では、ホールを中心に、「バイオ酵母の銘水パンを食べてみよう!」のコーナーやコンピュータで名前入りの携帯ストラップを作るコーナー、デジカメや押し花を使ってクリスマスカードを作るコーナー、ミュージック・ライブのDVD作成講座、学生ボランティア活動の報告展、学生の作ったアニメーションの上映など、各学科から工夫を凝らした展示が並んだ。エレクトロニクスの料を集めて作った暗室の中の「ミステリーゾーン」やデジカメによる「プリクラ」コーナー、コンビニの仕組みをパソコンとレゴのおもちゃで見せるコーナーも人気を集めていた。



高度な先端技術をおもちゃや実演で体験することができるので、子供連れの家族や高校生からは楽しくてわかりやすいと好評であった。

《参考になった!》

会場内では学生や高校生のバンドの演奏も行われ、ホールでは高校生や学生、飛び入りの教職員のピアノ演奏もあり、演奏後には周囲から自然と拍手がわき上がるなど、アットホームな雰囲気の2日間になった。



21日には推薦入試合格者などへの事前教育の一環として、学科ごとのスクーリングも行われた。その参加者も見学を訪れ、入学する学科の意外な面や先輩の姿を見ることができて参考になったとの声を聞いた。



《学生の元気が支えた!》

展示の説明や裏方として今回もっとも活躍したのは多くの学生たち。このように学生と市民との直接的な交流は、学生にとっても大きな自信となったようである。今後も、学生が主役となって地域社会と交流するユニークな企画が予定されている。

この広報はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/kikaku/kouhou/>